

プロレス力道山の活躍（昭和二十九年）

白黒テレビで力道山の試合が中継され、高級品であったテレビの流通が大いに活気づきました。

三種の神器

ラジオ部品販売市場、大手メーカーがトランジスタラジオなどで人気を博し、四畳半企業といわれた民間のラジオ屋が不況となる一方、家電のうち洗濯機、白黒テレビ、冷蔵庫がいわゆる三種の神器といわれるほど庶民生活に普及し、業界のリーダー役となる時代が到来しました。

神武景気（昭和三十三年）

家庭電化ブームの好景気到来。秋葉原パーク時代から、家電時代が到来し、月間販売が記録的になったと発表。各社が家電事業拡大策をとり、中央通りに進出。ようやく明るい電気の町となりました。車や人の流れも活発になりました。



駅北口（現 電気街口から中央通りを望む）

朝鮮戦争による特需（昭和二十五年）

日本の失業者が、この特需で救われました。

国産カラーテレビ一号完成（昭和三十四年）

NHKの全国放送も始まり、同時に各民間テレビもスタートしていましたが、皇太子ご成婚を機にカラーテレビ時代が到来しました。電気業界の超成長期となりました。

東京オリンピックとその後

高速道路で地方来客、時間短縮、秋葉原も車両増加対策会議が行われるほどになり、中央通りはほとんど電気の街となりました。

しかしオリンピック終了後は不況に見舞われ、家電の乱売が続きました。

経験不足なのか、背伸びした経営者の倒産が相次ぎ、秋葉原にもそんな警告を発した時期でした。



現在の駅北口